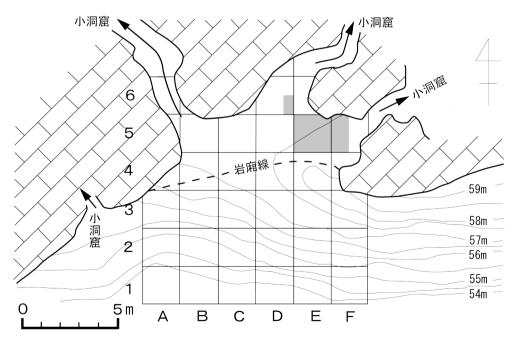


## 2013 年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 Ⅱ期(8月17日~23日)

## 帝釈大風呂洞窟遺跡(第18次)の調査

帝釈大風呂洞窟遺跡は神石郡神石高原町永野字大風呂に所在し、帝釈観音堂洞窟遺跡の直上約40mの急斜面に立地しています。洞窟は南に向けて開口し日当たりは良好で、規模は間口幅約11m、奥行き約4m、岩廂(いわびさし)までの高さ3.0~3.5m、面積は約40㎡です。また、洞窟内には小洞が3穴あって、さらに北側に伸びています。

本遺跡は1984年に発見され、1996年から調査が開始されました。これまで



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図 (網掛け部はII期の調査範囲)

の調査で、第3層(縄文時代前期~後期の層)では遺跡東半の D・E-5 区から焼土面(炉跡)などの遺構がまとまって検出され、D-5 区第3層からは食事に伴うとみられるマシジミが見つかっています。D-5 区を中心として生活関連遺構が残されて地であるに対し、土器片などの遺物は遺跡西半で多く出土し、遺跡東半と比べてとから、D-5 区周辺が生活の中心で、遺跡西半では土器の遺棄・廃棄などの行為が主に行われていたのではないかという可能性が示唆されています。

Ⅲ期の調査では、Ⅰ期に引き続きD-6・E-5・F-5区の調査を行い、E・F-5区は調査範囲を広げて、遺構・遺物の有無を確認しました。その結



写真 1 発掘調査風景



写真 2 油木小学校児童発掘体験風景

果、F-5 区から新たに焼土面が1 基検出されました。また、D-6・E-5・F-5 区 各調査区の掘削土から縄文土器片、石鏃や石器製作に伴う剥片や多くの砕片、動物骨や火を受けた動物骨が出土しました。これらの遺構・遺物の分布状況から、生活の中心の場が東側5 区列全体に広がる可能性が高まり、縄文時代における本遺跡の空間利用のより詳細な検討が可能になりました。

Ⅲ期の最終日には油木小学校の子供達が訪れ、調査区の発掘や掘削土を川で篩いにかけて遺物の有無を確認する水洗作業を体験してもらいました。とても元気で賑やかな子供達に発掘方法などを教えながら、楽しい時間を過ごすことができました。

Ⅲ期にはD-6・E-5・F-5区において、土層を土質・色などによって分層し 堆積状況の確認を行ったり、写真撮影や図面作成などの記録作業を進めたり する予定ですので、成果にご期待ください。 (金森大輝)

#### コラム1 『帝釈峡に馳せる思い』

今回初めて、発掘という考古学において避けては通れない野外活動に参加し、その楽しさ、 またその厳しさというものを学ぶことができました。

まず現場に行くということ、つまり机上でしか知らなかった遺跡に実際に赴き、発掘をするということが、私にとっては新鮮で、その事実が何とも言えない高揚感を私に与えてくれました。発掘作業は華やかとは言えず、正確に区画された箇所をひたすらに掘り進める、あるいはその掘削土を遺跡近くの川で篩にかけ、水洗選別をするという地味な作業の連続でした。その上、作業中に払うべき注意点も細く、また様々でした。ここに、野外活動の厳しさを感じました。しかし、先述の高揚感とともに、古瀬教授が日々説いている「一蓮托生」の精神や、「同じ釜の飯を食う」仲間とともに一日一日の作業を終えた時の感覚は、何にも代え難い達成感です。ここに野外活動の楽しさを感じました。

今回の発掘で様々なことを得て、私はまた一歩、考古学の世界に浸ったと実感しています。 (2年 貝原腎哉)

### コラム2『考古学へのワンステップ』

今年の春に広島大学文学部考古学研究室に足を踏み入れ、そして今回夏休みの実習という形で、初めて遺跡の発掘に参加しました。今年度から調査室も兼ねる宿舎が新しくなり、非常に良い環境の中で体験することができました。

大学院生や学部生の先輩達、そして同級生達と一緒に帝釈大風呂洞窟遺跡を訪れ、遺跡の発掘調査を開始しました。当初は右も左も分からない状態で、先輩達に指示を仰ぎ、初めての作業に戸惑っていました。また、事前に教わっていた標高を測る機材の使い方も、実際に現場で使ってみると、緊張と焦りでうまく扱うことができませんでした。そのことで落ち込んでしまいましたが、その日の夜に、自分が測った標高と以前に別の人が測った標高を照らし合わせると、自分の測った標高が正しかったことが分かり、とても嬉しく思いました。

来年の夏には、新しい2年生に教える立場の3年生として帝釈峡を訪れます。今の先輩方のように、しっかりと後輩を指導できるよう精進したいです。 (2年 福元隆希)

#### コラム3『諸先生方の来訪』

Ⅲ期には考古学に関わっている先生方が多く来訪されました。8月18日・19日には春成秀爾先生、上奈穂美先生、サイモン・ケイナー先生がお越しになり、18日の夜に懇話会を開いてくださいました。春成先生は約50年前の帝釈峡遺跡群発掘調査の様子や、現在進められている研究、自分で実測図を書くことの大切さについてお話してくださいました。そして、ケイナー先生は日本の縄文時代に興味を持たれた経緯や、西欧各国に所在する石器時代の遺跡について、そして上先生は帝釈峡馬渡岩陰遺跡でも出土しているカワシンジュガイの北海道の擦文文化における利用法についてお話しされました。また8月19日~22日には、帝釈峡遺跡群を研究領域とされており、継続して発掘調査に来られている愛知教育大学の河村善也先生と娘さんの愛さんがいらっしゃいました。21日の夜には、最近新しく石垣島で発見された動物遺体の出土地の話を中心に、帝釈峡遺跡群のものと比較しながら沖縄諸島の動物相について親子で講義していただきました。過去に帝釈峡遺跡群に関わった先輩方の思いを胸に、残りの期間も頑張って発掘していこうと思います。

# 人物往来

8月17日 山口大学文化財資料館 石丸恵利子氏

8月18日·19日 国立歴史民俗博物館 春成秀爾名誉教授

国立歴史民俗博物館 上奈穂美氏 セインズベリー日本藝術研究所

サイモン・ケイナー考古・文化遺産学センター長

8月19日~22日 愛知教育大学 河村善山教授

大阪市立大学大学院生 河村愛氏

8月23日 ゆきキッズクラブ (油木小学校の子供たち)、新聞記者3名

広島大学考古学研究室 学部4年生5名·大学院生1名

### 参加者名簿 (Ⅱ期 8月17日~8月23日)

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

同上 准教授 竹広文明

同上 大学院生 市川伯博 藤井翔平 森本直人

広島大学文学部生 3回生 浅井美雪 大嶋健介 金森大輝

北之園直哉 古久保茜

2回生 貝原賢哉 平本直幹 福地祥平

福元降希 渡邊直宝

台湾 国立成功大学 大学院生 王國全

## 陣中見舞い(50音順)

河村善也様:飲料、夕食一品 神石高原町教育員会様:ビール、ジュース 西別府元日様:ビール、ジュース 春成秀爾様・サイモン ケイナー様・上奈穂美様:お菓子、ウィスキー 藤井雅大様:お菓子 松永直樹様:お米ほか、村田晋様・考古学研究室4年生様:スイカ、花火

また地元の皆様には、本年度もご支援いただき、大変感謝しています。末筆ではございますが、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

#### 編集後記

帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘調査は第18次にも及び、調査開始から約20年が経ちました。毎年発行している帝釈峡遺跡群発掘調査室の年報などで各年度の記録写真などを見ると、遺跡を覆っていた土が徐々に掘り進められてく様子がありありと分かり、年月の経過と先輩方の努力が感じられます。今年度の発掘調査もⅡ期が終了し、残るはⅢ期のみとなりました。8月29日(木)には14時から現地説明会を行いますので(雨天の場合は神石公民館にて開催)、奮ってご参加ください。 (編集 市川)

広島大学考古学研究室 〒 739-8522 東広島市鏡山 1-2-3 (Tel: 0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒 729-5254 庄原市東城町帝釈未渡 1903 (Tel: 08477-6-0101)

(兼 広島大学帝釈峡野外実習施設)

研究室ホームページ URL http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko